

儀礼文化

五つの提言

日本文化の形と心を探ろう
生活に季節を織り込もう
わが家の年中行事を作ろう
子どもたちに伝統文化を伝えよう
ふるさとの祭りや行事に参加しよう

【発行所】 一般社団法人 儀礼文化学会
〒160-0012 東京都新宿区南元町 13-7
電話 03 (3355) 4188



開館 77 周年
明治記念館



神ざさらと呼ばれる行事では集落の中をめぐる獅子舞を奉納する

獅子舞が終わわり、真っ暗な山道を独り自転車帰る際、心細くてたまらなかつたという話を伺ったことがある。すると自転車の周囲に色とりどりの獅子が出てきて導いてくれたのだそうだ。なぜ色とりどりののか不思議だったが、門平の獅子を見て何となく理解できた。

儀礼文化学会を創設した倉林正次は、学生時代に師である西角井正慶から「お前は獅子舞をやってみろ」と言われ、獅子舞調査に取り組んだ。しかし舞の構成がわからずに、何年も苦しんだという。

そんなときに出会ったのが、郷里の家から山をいくつか越えた門平という山村で見つけた獅子舞の伝書であった。「これを手にした時のよこぎりは今でも忘れられない」と述懐している。

この伝書をもとに舞曲の構造を分析した。こうした構成が学者の机上の理論から出たものではなく、村人たちの真摯な芸能伝承の執念から生み出されたということが嬉しかったという。この構造把握を原点に倉林は、儀礼文化という枠組みの発想に至ったのである。



特徴的な顔立ちをした門平の獅子舞

「儀礼文化」発想の原点となった獅子舞

●祭事スケッチ——写真 伊藤 純 文 久保田裕道
【埼玉県秩父郡皆野町 日野沢大神社奥社 門平の獅子舞】

●門平の獅子舞

埼玉県皆野町 日野沢大神社奥社
10月14日

《12月号ガイド》

2面：催し物案内／儀礼文化を語る

3面：儀礼文化を語る／レポート

4・5面：倉林名誉理事長を偲んで

6面：研究会報告

7面：ミュージアム探訪／献華式

8面：季節の料理